

くしろ



ホームページ
QRコード



『KO-BO KUISINBO Suzu』我が家の“定番おやつ”を商品化！

乳・乳製品を活用したお菓子やお惣菜を製造している鶴居村の吉田鈴子さんの工房です。チーズケーキは30年以上前から我が家の定番として作り続け、家族や知人から「美味しい！」と好評を得ていました。以前から「売ってほしい」という声があり、“鶴居たんちょうプラザ「つるぼーの家」”のオープンをきっかけに販売を始めました。普及センターでは、食品製造における衛生管理などの相談を受け、取組を支援しています。

	所在地	電話・FAX	Eメールアドレス
釧路農業改良 普及センター本所	〒088-2313 川上郡標茶町常盤8丁目5番地	Tel:015-485-2514 Fax:015-485-2249	kusirokita-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp
釧路東部支所	〒088-1365 厚岸郡浜中町茶内橋北東31番地	Tel:0153-65-2021 Fax:0153-65-2037	kushirotto-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp
釧路中西部支所	〒084-0917 釧路市大楽毛127番地	Tel:0154-57-8306 Fax:0154-57-4702	kushirochu-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp

ホームページアドレス : <https://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/>

重点活動の紹介(東部支所)

2年目の重点的普及活動は

釧路東部支所は、令和3年度より厚岸町の若松・糸魚沢地域の方々や関係機関とともに、重点的普及活動に取り組んでいます。

令和4年度は同地域の農家戸数が減少しており、生乳生産量を維持するために「自給粗飼料の安定確保」「飼養管理の改善による生乳生産性の向上」が重要となっています。

令和4年8月までの活動は、前年から継続している「草地の植生調査」「牧草の収量調査」です(写真1)。この後に行う「草地管理アン

ケート」も活用し、牧草割合維持のための管理技術を地域で共有する計画です。

また、各牧場と乳牛飼養管理改善に取り組んでいます。内容は「飼料設計による乳牛の栄養バランス適正化」「ほ育牛と育成牛の飼養環境改善、栄養改善」です(写真2)。

その他に、「草地へのシカによる食害」についても調査を行っています。

今後も、取組の効果を検証しながら生乳生産性向上を目指します。



写真1 収量調査の様子：草地ごとに生産性を評価します



写真2 育成牛の体重・体高を調査し発育状態を調べます

地域の話(中西部支所)

3年ぶりに集まりました！！

釧路管内の若手農業者組織である「アグリネット946」は、新型コロナの影響で延期されていた夏季交流会を3年ぶりに開催しました。

今回はJA阿寒青年部4Hクラブ山崎大裕さんが代表を務める、釧路市阿寒町の山崎農園にて行われました。

山崎農園は直売所を営んでおり、「新鮮で美味しい野菜を食べて欲しい」との想いで販売しています。

交流会は山崎代表がハウス1棟ごとに栽培品目や栽培にあたってのこだわりなどを説明し、試食も行われました。

参加者は酪農家が多く、「野菜農家を視察する機会が無かったので、勉強になった。今後は直売所に野菜を買いに行きたい。」との声が聞かれました。

普及センターは、今後も地域の未来を担う若手農業者を支援していきます。



写真1 山崎代表による農園の説明



写真2 キュウリの試食も行われました

活動の紹介

良質自給飼料生産に向けた課題の整理

普及センター課題解決チームは令和3年度に釧路管内採草地の植生を調査しました。牧草割合（イネ科牧草とマメ科牧草の合計）は46%で、収量性と栄養価改善の障害となっていることがわかりました。また令和3年と平成24年を比較して、10年間で牧草割合に大きな変化はありませんでした(図1)。

採草地(91ほ場)の植生割合を更新年数別にをまとめたところ、更新7年後には牧草割

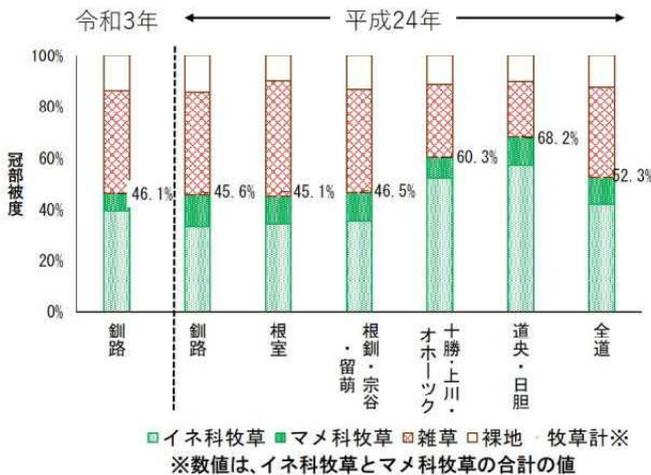


図1 令和3年釧路管内と過去道内地域の植生割合

合が50%を下回っていました(図2)。

良好な植生維持のためには、更新時に適切な除草剤の使用により牧草割合を高めると石灰資材の散布や牧草の生育に合わせた施肥などの維持管理が重要です。

令和4年度は、①ほ場の現状に合わせた植生改善対応策の整理、②釧路管内での取り組み事例および改善成果、を確認していきます。

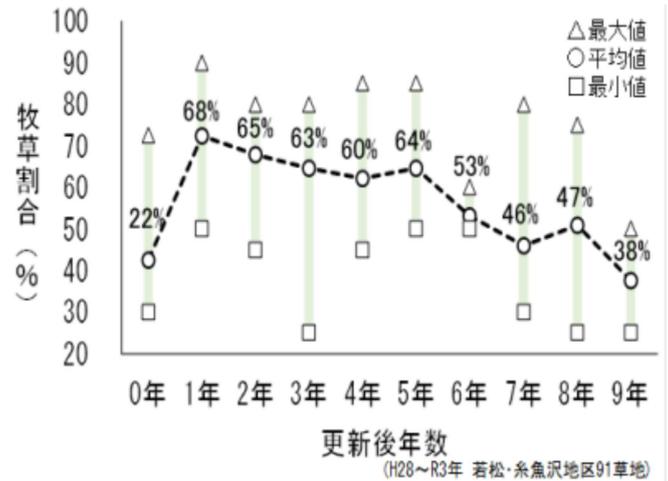


図2 草地更新後年数と牧草割合

活動の紹介

肉牛飼養管理技術向上に向けた調査

普及センターでは「肉牛の飼養管理技術の向上」を課題に調査研究を行っています。

令和3年度は、『和牛初生市場の現状把握』、『先進地事例調査』および『管内農家支援』に取り組みました。

和牛初生市場の現状把握のため、家畜市場現地調査を行いました。実際に市場へ行くことで血統・発育の良さが価格に反映する事を確認しました。



写真1 先進地事例調査の様子

また、市場データを基に種雄牛・雌雄別に体重と1kg当たり単価をグラフ化し、今後の計画交配の参考とするため農業者へ情報提供しました。農業者からは「和牛初生市場の情報は少ないため情報を得ることができて助かる」という声を聞くことが出来ました。

今年度も調査研究を継続しています。調査結果の情報などが必要な方は普及センターまでお問い合わせください。

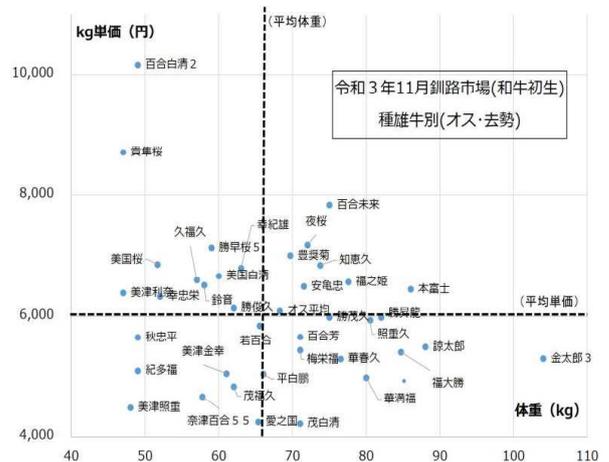


図1 市場の販売データをグラフ化し農業者へ情報提供

牛の飼養場所を生育ステージに合わせて変える際、牛が逃げないように多人数で囲いながら移動させるという方もいるのではないのでしょうか？今回は自作の可動式柵で少人数での牛の移動が可能となった事例を紹介します。

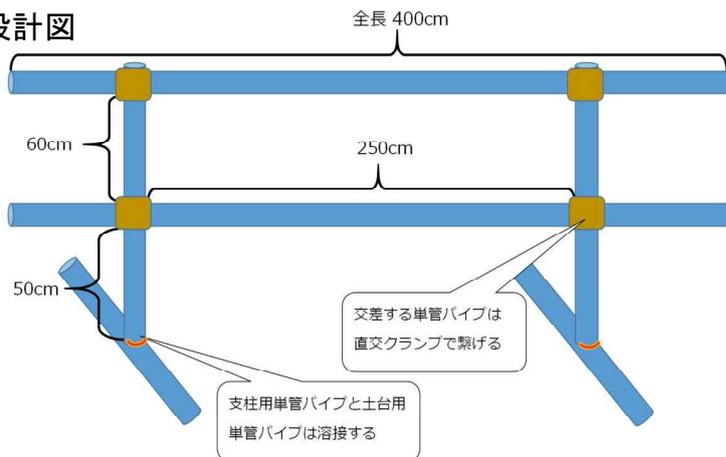
材料

- 単管パイプ 4 m × 2
- 1.2m × 2 (支柱用)
- 1 m × 2 (土台用)
- 直交クランプ 4 個

製作方法

- ①単管パイプをすべて必要な長さに切る
- ②土台用単管パイプと支柱用単管パイプを溶接する
- ③支柱と4mの単管パイプを直交クランプで繋げる

設計図



完成写真

資材購入 ホームセンター
 費用 約 5000 円/個
 製作時間 30 分程度



単管パイプ製の柵は扱いが容易です



いくつか並べて牛の通路をつくっています



女性でも持ち運びできますよ！

より詳しく知りたい方は
 普及センター本所までご連絡ください。